＜口腔の役割＞

宇宙戦争

「十九世紀の末、人々はまさか人類よりすぐれた知能をもつ、そしておなじように生命の限りある生物に、こまかく観察されているとは思ってもいなかった。人々は日々の暮らしに忙しく追われていた。そんなときに、たとえば顕微鏡におかれた一滴（しずく）の水のなかで、うじゃうじゃうごめいて繁殖する微生物のようにしらべられていると、いったいだれが思うだろう。」

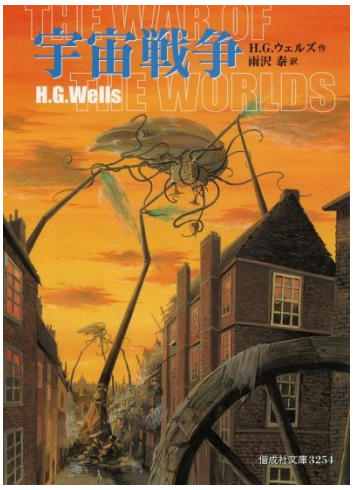
これはH.G.ウェルズ（ハーバード・ジョージ・ウェルズ）の小説「宇宙戦争」（1898年作）の冒頭です。この小説は2005年に映画化（トム・クルーズ主演、スティーヴン・スピルバーグ監督）されたため、トム・クルーズファン以外にも知る人は多いのではないでしょうか。

火星からイギリスに向けて複数の巨大な円筒が投入され、円筒からは突如、三本脚の巨大な戦闘マシン（トライポッド）を操る醜悪（しゅうあく）な火星人が現れ、トライポッドを操縦し、目に見えない熱線で人々を焼き払い、次々に町を破壊していきます。この事態に英国軍が出撃するも全滅し、ロンドン市民はパニックに陥ります。火星人の襲来から15日目、極限状態で逃げ惑っていた人々も死を覚悟し始めましたが、火星人も予想していなかったまさかの理由で火星人は死滅し、人々は助かることになります。

小説の書き出しに「一滴の水のなかで、うじゃうじゃうごめいて繁殖する微生物」とありますが、実は我々の唾液1ml（ミリリットル）あたりには10億の微生物がうごめいています。口腔内の細菌の種類は約700種、歯の表面に付着するプラーク（歯垢）は1g（グラム）で1000億の細菌が含まれます。この細菌のすべてが悪さをするわけではなく、善玉菌も存在し、また細菌同士が互いに繁殖を抑えあうなどして共生をしています。歯痛や歯肉の腫れの原因となる細菌はこの中のごくわずかで、歯性感染症の多くは歯磨きを怠る、小さな虫歯を放置する、かかりつけ歯科医院をもたずに定期歯科検診を受けていないことから起こります。

患者さんの中には「腫れたから抗生剤をください」、「腫れが引かないので抗生剤をまた出してください」、「抗生剤を処方されなかったからこんなに腫れた」という人が多くみられます。実は早期に適切な歯科治療を受け、日ごろからの歯科検診により、むし歯、歯周病の予防をしていればそのほとんどは抗生剤（抗菌薬）に頼る必要はないのです。

近年、不適切な抗菌薬の使用により、耐性を獲得した菌が強い病原性をもつ時代になりました。そのため、抗菌薬の薬剤耐性対策をとらないと 2050 年には 1000 万人（3 秒に 1 人）の薬剤耐性菌による死亡が想定され、がんによる死亡者数を上回るといわれています。我々がこの小説の火星人のような結末を迎えることのないように抗菌薬に頼ることなく、口腔はもちろん、日ごろから健康管理をしっかり行うことが大切です。



宇宙戦争　H.G.ウェルズ作　雨沢　泰訳　偕成社文庫

タコそっくりな火星人のイメージを定着させたのはこの小説といわれます。

アメリカでオーソン・ウェルズによってラジオドラマ化され、そのあまりの迫真力に人々はパニックを引き起こしたといわれています。

【歯科口腔外科診療部長　今井　正之】